

2024年9月18日

**カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）の検出について\_第1報**

当院において、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）<sup>※1</sup>が検出される患者さんが、通常より多く認められていることをご報告いたします。

CRE感染症については、感染症法に基づく発生動向調査として国への報告を行っているところですが、当院の2023年の届出数に増加が認められたことから、（2024年1月以降）国立感染症研究所及び札幌市保健所のご指導をいただきながら、感染防止対策の改善に向けた取り組みを行っているところです。

患者さんをはじめ当院をご利用される皆さま、関係施設の皆さま、更には地域の皆さまには、ご迷惑とご心配をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。

また今後、感染対策の更なる強化に取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、今後の経過につきましては、当院ホームページにおいて随時報告してまいります。

**記**

- ・検出された患者数<sup>※2</sup> 32症例（保菌者19症例、感染者13症例）

医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院 病院長

【お問合せ】本件についてのお問合せは、事務長・下澤までメールにてお願いいたします。

メールアドレス kazumoto.shimosawa@tokushukai.jp

※1 CREにつきましては下記囲み枠もご参照ください。

**○カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）**

- ・抗菌薬が効きにくい細菌（薬剤耐性菌）の一種。カルバペネム系抗菌薬に耐性を示します。このうち、カルバペネムを分解する酵素（カルバペネマーゼ）を産生する腸内細菌目細菌をカルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌（CPE）といいます。今回はこのCPEを対象としています。
- ・腸内細菌目細菌は、大腸菌などと同じく腸内等に保菌されている状態では病気の原因にならず治療は必要ありません。膀胱や腎臓、胆のうなどでは病気を引き起こすことがあります。
- ・CREが原因となって感染症を発症した場合は、有効な抗菌薬が限られるので治療が難しくなる可能性があります。

※2 該当する症例の定義は次のとおりです。

「2023年1月1日から2024年6月7日までに採取された検体から、初めてCREが分離され、当該分離菌がカルバペネマーゼ陽性と確認された患者」